

○計画期間:令和5年4月～令和10年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和6年度終了時点(令和7年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、平成20年度に第1期計画がスタートし、第1期計画では駅南地区の活性化を、第2期計画では駅北地区の活性化を大きなテーマに掲げて取り組み、BiVi 藤枝やオーレ藤枝、藤枝駅前1丁目8街区市街地再開発事業（フジエダミキネ）等の拠点整備が実現した。こうした成果として、全ての目標指標を達成してきた。第3期計画では開発段階からまちの熟成段階へと移行し、暮らしや交流の場としての向上を目指し、目標指標として「居住人口[社会増]」、「昼間の歩行者通行量」、「空き店舗数」、「イベント来場者数」を掲げたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により「空き店舗数」、「昼間の歩行者通行量」、「イベント来場者数」については目標未達となった。

令和5年4月策定の第4期計画では「魅力溢れる暮らし 賑わい広がる しずおか中部の生活・創造拠点」というテーマで、安全・快適・便利なスマートコンパクトシティを推進し、コワーキングスペース未来共創ラボや藤枝市産学官連携推進センター等と連携してビジネス拠点としての地位を高めるほか、エリアの日常的な賑わいを創出すること等を方針とし、様々な事業を実施している。

藤枝駅周辺で行うイベント事業については、当初の予定通りほぼ毎月、藤枝駅南口広場や公園などでイベントを開催し、賑わいのある空間を創出している。また、「藤枝駅前1丁目9街区市街地再開発事業」や「藤枝駅前2丁目市有地有効活用事業」については、建築工事が着工し、順調に進捗している。その他、新たな高層マンションが完成したほか、空き店舗のリノベーション等により、流行りの韓国グルメを取り扱うカフェや、近隣市で人気のコーヒースタンドなど、若者をターゲットにした飲食店の出店が相次いでおり、目標指標の達成に寄与する好循環が生まれつつある。

今後も計画に位置付けた事業を推進し、目標指標の達成はもとより、基本方針である「イノベーションを生み出す、魅力溢れる生活・創造空間の創出」と「人と人、人と街がつながり、多くの人々で賑わう交流空間の創出」の実現を目指していく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度 12月31日)

(中心市街地 区域)	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
人口	11,246	11,080	11,008			
人口増減数	▲18	▲166	▲72			
自然増減数	▲18	▲41	▲43			
社会増減数	1	▲133	▲18			
その他 (帰化・職権処理等)	▲1	8	▲11			
転入者数	713	634	747			

(2) 地価

(単位：円/㎡)

住居表示	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
駅前 2-7-27	149,000	150,000	153,000			
前島 2-1-4	156,000	157,000	159,000			
前島 3-6-20	103,000	104,000	106,000			

2. 令和6年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

4つの指標のうち、「居住人口 [社会増]」及び「昼間の歩行者通行量」については、昨年の数値より改善したものの、基準値を下回る結果となった。「居住人口 [社会増]」については、市街地再開発事業などのハード整備も重要であるが、現在居住している方々の流出を防ぐために、住みやすさや暮らしやすさ、居心地の良さなど、ハード・ソフト両輪でより良い住環境を整備していく必要があると考える。「昼間の歩行者通行量」については、現在リニューアルが進められている賑わい再生拠点施設や、2つの新たなビジネス創出拠点施設を核とし、回遊に繋げることで数値を改善していくとともに、地域経済へと循環させていきたい。

一方で、「空き店舗数」及び「イベント来場者数」については、目標値を達成した。「空き店舗数」については、今後も空き店舗を活用した出店に係る補助金や、リノベーションなどを推進することで数値をさらに改善していきたい。「イベント来場者数」については、イベント内容のブラッシュアップはもとより、SNS等を積極的に活用・分析したPRにより、来訪機運を高めていきたい。

今後も計画に掲載された事業を着実に推進するとともに、官民連携による中心市街地の活性化に取り組んでいきたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
多様な都市機能の集積による、街なかの魅力向上	居住人口【社会増】	111 人/年 (H25～R3)	119 人/年 (R5～R9)	▲76 人/年 (R5～R6)	C	A	a
各拠点の有機的な連携による、持続可能なビジネス環境の構築	昼間の歩行者通行量	7,676 人/日 (R1)	8,022 人/日 (R9)	6,487 人/日 (R6)	C	A	a
良好な景観形成と伴走型支援による、エリアの求心力向上	空き店舗数	55 件 (R3)	47 件 (R9)	45 件 (R6)	A	A	A
既存ストックの活用による、多世代が集う賑わい再生	イベント来場者数	54,371 人/年 (R1)	54,600 人/年 (R9)	60,329 人/年 (R6)	A	A	A

< 基準値からの改善状況（※1） >

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類（※2） >

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A：目標達成が見込まれる

B：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「< 基準値からの改善状況（※1） >」、< 目標達成に関する見通しの分類（※2） >ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。（例：a、b、c）

2. 目標達成見通しの理由

「居住人口[社会増]」については、藤枝駅前一丁目 6 街区第一種市街地再開発事業が昨今の工事費高騰等により、令和 11 年度竣工予定となり、計画当初のスケジュールよりも遅れるため、目標達成に大きく影響されるが、一方で、駅周辺のマンション需要は高く、民間事業者による高層マンション（56 戸）が令和 7 年 2 月に竣工したほか、令和 8 年 2 月竣工予定のマンション（22 戸）、令和 9 年竣工予定の藤枝駅前一丁目 9 街区第一種市街地再開発事業（132 戸）等による人口増加が見込まれていることから、目標達成はできる見通し。

「昼間の歩行者通行量」については、毎年 7 月から 8 月の夏季と 2 月の冬季の年 2 回、計測調査している。若者をターゲットとしたカフェなどの開業が目立ち、数値として改善した。「居住人口 [社会増]」と同様に、藤枝駅前一丁目 6 街区第一種市街地再開発事

業の竣工遅れによる影響が懸念されるが、藤枝駅前一丁目 9 街区第一種市街地再開発事業や、民間事業者によるマンション等の建設が堅調なことに加え、賑わい再生拠点施設のリニューアルや、新たな2つのビジネス創出拠点施設の立地が予定されており、昼間の歩行者通行量についても目標達成できる見通し。

「空き店舗数」については、経済活動が活発になってきたなかで、各事業の効果が発現されたことで目標値を達成する数値となった。今後も起業・創業や出店などの支援事業を継続的に実施していくほか、静岡県が進める「リノベーションまちづくり」と連携した事業を進めていくことで、目標達成できる見通し。

「イベント来場者数」については、当初予定した 12 回のイベントを全て実施することができた。人気企画であるビアフェスのほか、新企画としてサッカーフェスやコスプレイベントを実施。イルミネーション事業では、初の試みとして、駅南のロータリーを通行止めにして点灯式を行い、観覧エリアが拡大したことで多くの方が来場し、経済波及や賑わいを創出した。今後も人気企画を継続するほか、イルミネーション事業もブラッシュアップして実施していくことから、目標達成できる見通し。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「居住人口 [社会増]」

目標達成見通しについては、藤枝駅前一丁目 6 街区第一種市街地再開発事業の進捗が昨今の工事費高騰等により当初よりも遅れ、令和 11 年度竣工予定となったが、民間事業者によるマンション建設の動きが旺盛であるため、目標達成が見込まれる (a) と評価した。

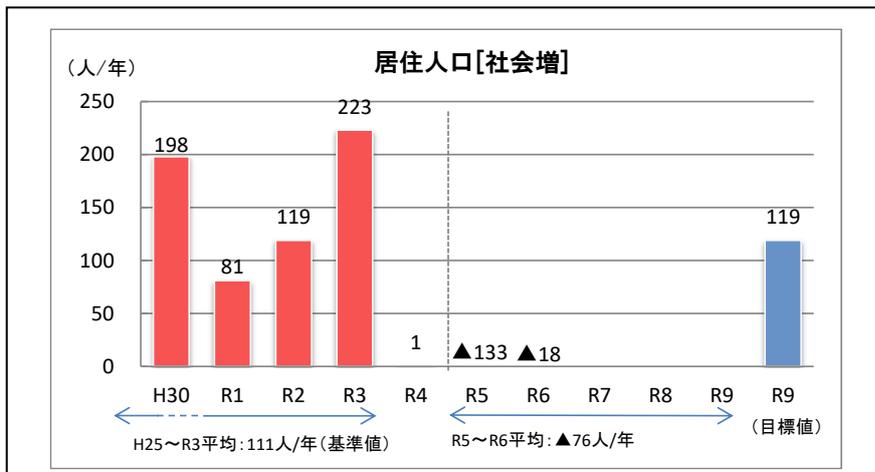
「昼間の歩行者通行量」

目標達成見通しについては、上記の「居住人口 [社会増]」と同様、藤枝駅前一丁目 6 街区第一種市街地再開発事業のスケジュールが遅れているが、民間によるマンション建設等が旺盛であることに加え、賑わい再生拠点施設のリニューアルや、新たな2つのビジネス創出拠点施設の立地が予定されていることから、目標達成が見込まれる (a) と評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「居住人口[社会増]」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 83～P. 86 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R3	111 (基準年値) H25～R3 平均
R5	▲133
R6	▲18
R7	
R8	
R9	
R9	119 (目標値)

※調査方法： 住民基本台帳より集計

※調査月： 令和6年12月

※調査主体： 藤枝市

※調査対象： 中心市街地内の居住者数

〈分析内容〉

居住人口[社会増]の増加に向けた各事業については、おおむね予定どおり進捗している。令和6年は▲18人/年と、僅かに社会減となり、令和5年との平均では▲76人となった。昨今の建築工事費高騰等の影響もあり、新築動向が鈍化したことが要因として考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業（再開発組合）

事業実施期間	平成22年度～令和11年度【実施中】 [認定基本計画：平成22年度～令和9年度]
事業概要	藤枝駅前商店街の中心に位置する立地特性を活かし、一体的かつ高度な土地利用により良好な居住環境整備とともに、商業や業務施設などの整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） （令和6年度～令和10年度） [認定基本計画：令和2年度～令和6年度]
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和6年10月に都市計画決定。工事費の高騰等により、事業計画を見直すこととなり、事業が遅延。令和9年に施設建築物の着工、令和11年に竣工予定に変更。完了後には、212人の居住人口の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和7年度末の組合設立・事業計画の県知事認可を目指す。

②藤枝駅前一丁目9街区第一種市街地再開発事業（再開発組合）

事業実施期間	令和4年度～令和9年度【実施中】
事業概要	JR 藤枝駅に隣接する好立地にありながら、狭小な敷地に老朽化した建築物が密集し、商業店舗数が減少するなど衰退傾向にある当地区において、一体的かつ高度な土地利用により、良好な居住環境整備とともに、暮らしを支える施設の導入などを行い、“街なか生活サービス拠点”を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和6年度～令和10年度） [認定基本計画：令和4年度～令和8年度]
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和3年度に都市計画決定し、令和6年4月に権利変換計画が認可。令和6年11月より建築着工。完了後は、245人の居住人口の増加を見込んでいる。低層部には、大正大学のインキュベーションセンターを設置予定である。
事業の今後について	建築工事は順調に進んでおり、令和9年6月頃の竣工を目指す。

③空き家活用・流通促進事業（藤枝市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	市内の空き家（中古マンション含む）の取得、改修及び移転に要する経費に対して助成を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和6年度は、市内全体で197件の活用があり、そのうち中心市街地内は17件だった。活件数は昨年と同水準で、33名の流入があった。
事業の今後について	今後も事業を継続実施することで、市内の空き家の有効活用及び流通促進を図る。

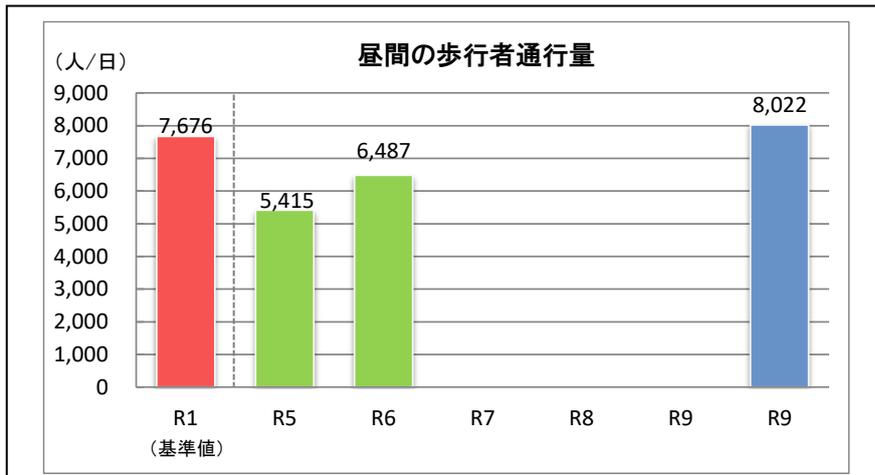
●目標達成の見通し及び今後の対策

藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業が令和11年度竣工予定となり、計画当初のスケジュールよりも遅れることとなった一方で、藤枝駅周辺を中心にマンション等の需要は高く、令和7年2月には民間事業者によるマンション（56戸）が竣工したほか、令和8年2月にもマンション（22戸）が竣工予定。そのほか、藤枝駅前一丁目9街区第一種市街地再開発事業（132戸）の完了も控えているため、目標達成できる見通し。

今後は、エリアの価値を高めることで民間事業者による開発行為を誘導していきつつ、工事が進められている藤枝駅前一丁目9街区市街地再開発事業については、計画どおり進捗するよう支援し、目標達成を目指していきたい。

(2) 「昼間の歩行者通行量」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 87～P. 91 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R1	7,676 (基準年値)
R5	5,415
R6	6,487
R7	
R8	
R9	
R9	8,022 (目標値)

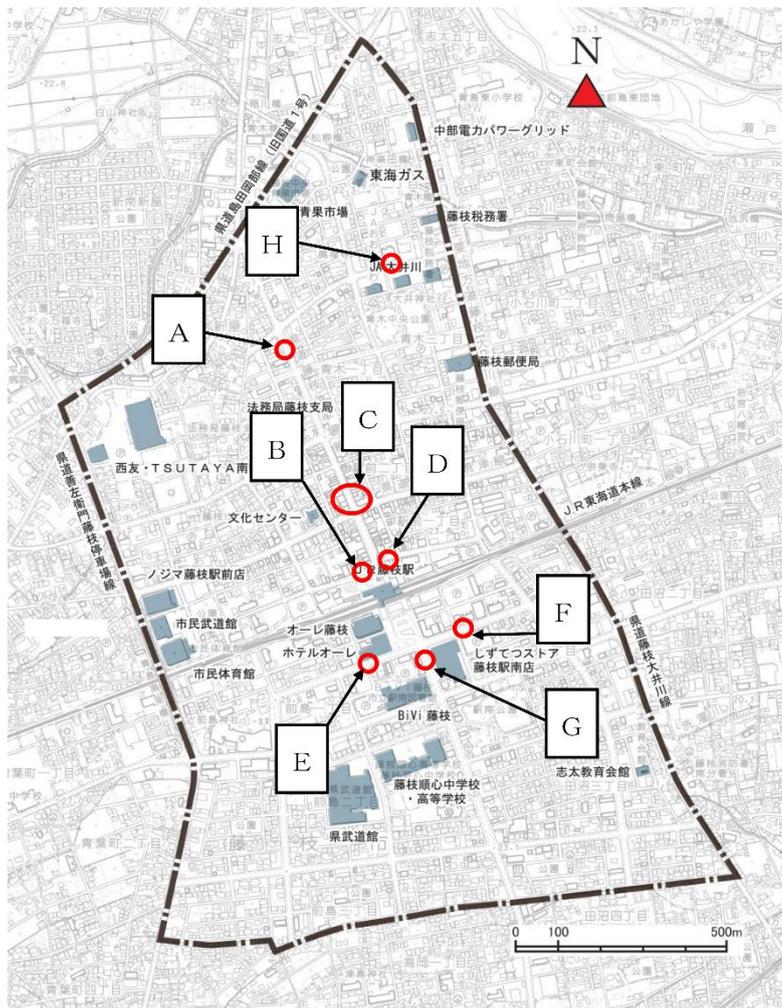
※調査方法：夏季及び冬季の平日・休日それぞれ 9 時～17 時に計測し、平均値を調査

※調査月：令和6年7月、令和7年2月

※調査主体：藤枝市

※調査対象：JR藤枝駅南北主要8地点における歩行者

※調査地点図



(単位：人)

	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
地点A	193	190	205			
地点B	973	696	1,038			
地点C	525	465	486			
地点D	495	424	695			
地点E	1,407	1,227	1,176			
地点F	343	318	306			
地点G	2,078	1,930	2,420			
地点H	216	165	161			
合計	6,230	5,415	6,487			

〈分析内容〉

「昼間の歩行者通行量」の増加に向けた事業は、おおむね順調に進捗している。様々な事業を通じて中心市街地の魅力や店舗情報などを発信してきた効果として、エリア内に来訪する機運が高まってきたことが要因として考えられる。また、若者をターゲットにしたカフェがオープンするなど、新規出店の動きもあったこと等により、数値に改善がみられた。市街地再開発事業をはじめとしたハード事業については、今後の効果発現となる。なお、調査月については、近年の異常な酷暑による調査員（シルバー人材センター）への負担を考慮し、7月も調査月に含めることとした。

※調査日：7月31日（水） 8月3日（土） 2月12日（水） 2月16日（日）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①首都圏企業等誘導推進事業

事業実施期間	令和3年度～
事業概要	課題解決型ワーケーションツアー等を実施し、市に不在の革新的技術・サービスを有する企業・オフィスをアクセス性の高い駅周辺に誘導し、地域企業とのビジネスマッチングを促進することにより、中心市街地での活動交流の促進や関係人口の創出とともに、市内産業の成長や新たなビジネス創出につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金
事業目標値・最新値及び進捗状況	同事業の拠点となる「藤枝駅前ワーキングスペース未来共創ラボフジキチ」の利用者数は、令和6年度は9,433人と、昨年より835人増加した。施設利用者による空き店舗への出店はなかった。
事業の今後について	引き続き同施設の運営をサポートし、利用者の増加を目指す。

②藤枝駅前二丁目市有地有効活用事業（藤枝市、島田掛川信用金庫）

事業実施期間	令和4年度～令和7年度【実施中】
事業概要	老朽化した「市営藤枝駅前駐車場」を解体し、その跡地を民間活力を導入し、駐車場機能を維持しつつ、広域都市機能を持つ新たな賑わい創出施設の設置を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和4年6月にプロポーザルにより業者決定。その後、令和5年4月に売買契約を締結し、令和7年11月下旬の竣工を目指し工事中。1階は店舗営業ゾーン（金融機関ロビー）、2階は地域支援ゾーン（コワーキングスペース等）、3階は本部営業ゾーン（会議室、応接室等）として計画。
事業の今後について	2階の地域支援ゾーン（コワーキングスペース等）をオープンスペースとして活用することで、ビジネス環境を整備していく。

③開業チャンス！応援事業（藤枝市）

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	当該区域の空き店舗や商業施設の空きスペース等で新規出店する個人・団体又は建物の所有者に対し、建物改修費用や新規契約等初期費用、継続宣伝費用等を補助し、伴走支援を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和6年度は全体で11件の活用があり、うち中心市街地内は8件だった。昼営業の飲食店の開業などもあり、昼間の歩行者通量の増加にも寄与している。
事業の今後について	事業を通して空き店舗の活用等を推進し、空き店舗数の減少や昼間の歩行者通行量の増加に努めていく。

④藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業（再開発組合）【再掲】

事業実施期間	平成22年度～令和11年度【実施中】 [認定基本計画：平成22年度～令和9年度]
事業概要	藤枝駅前商店街の中心に位置する立地特性を活かし、一体的かつ高度な土地利用により良好な居住環境整備とともに、商業や業務施設などの整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） （令和6年度～令和10年度） [認定基本計画：令和2年度～令和6年度]
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和6年10月に都市計画決定。工事費の高騰等により、事業計画を見直すこととなり、事業が遅延。令和9年に施設建築物の着工、令和11年に竣工予定に変更。完了後には、212人の居住人口の増加を見込んでいる。
事業の今後について	令和7年度末の組合設立・事業計画の県知事認可を目指す。

⑤藤枝駅前一丁目9街区第一種市街地再開発事業（再開発組合）【再掲】

事業実施期間	令和4年度～令和9年度【実施中】
事業概要	JR藤枝駅に隣接する好立地にありながら、狭小な敷地に老朽化した建築物が密集し、商業店舗数が減少するなど衰退傾向にある当地区において、一体的かつ高度な土地利用により、良好な居住環境整備とともに、暮らしを支える施設の導入などを行い、“街なか生活サービス拠点”を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和6年度～令和10年度） [認定基本計画：令和4年度～令和8年度]
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和3年度に都市計画決定し、令和6年4月に権利変換計画が認可。令和6年11月より建築着工。完了後は、245人の居住人口の増加を見込んでいる。低層部には、大正大学のインキュベーションセンターを設置予定である。
事業の今後について	建築工事は順調に進んでおり、令和9年6月頃の竣工を目指す。

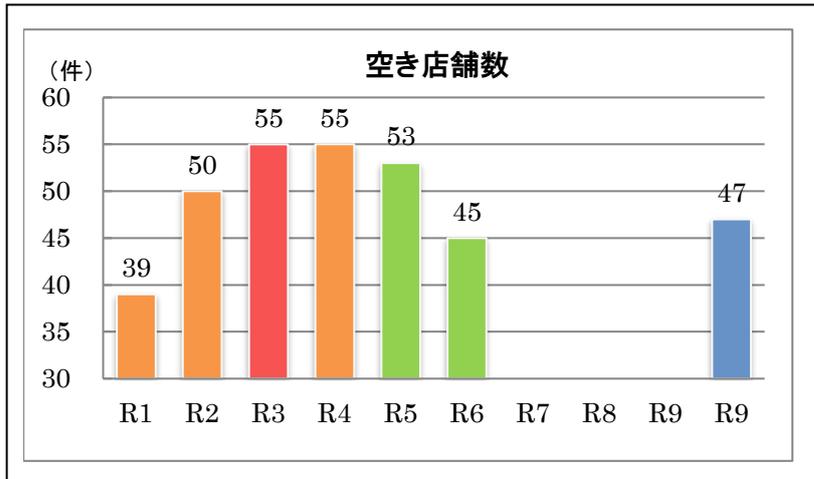
●目標達成の見通し及び今後の対策

藤枝駅前一丁目6街区第一種市街地再開発事業が令和11年度竣工予定となり、計画当初のスケジュールよりも遅れることとなった一方で、民間事業者の新規出店の動きがあることに加え、今年11月末には駅前二丁目市有地有効活用事業が竣工し、令和9年度には藤枝駅前一丁目9街区第一種市街地再開発事業や賑わい再生拠点施設のリニューアルの効果が発現されるため、目標達成できる見通し。

ソフト事業においても、民間事業者と連携し、地域の魅力を発信することで来訪機運を高め、数値を高めていきたい。

(3) 「空き店舗数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 92～P. 95 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R3	55 (基準年値)
R5	53
R6	45
R7	
R8	
R9	
R9	47 (目標値)

※調査方法：各商店街へ調査票送付

※調査月：令和7年3月

※調査主体：藤枝市

※調査対象：中心市街地内にある4商店街

〈分析内容〉

空き店舗数の減少に向けた各事業については、おおむね予定どおり進捗している。

空き店舗などへの出店に対する補助金「開業チャンス！応援事業」を活用し、7店舗が中心市街地区域内へ新規出店したことで、空き店舗数の減少に寄与した。ビジネスプランプリアや女性の起業・創業支援など、市が実施している起業サポートの効果が発現されてきたことも要因の1つと考えられる。なお、令和7年3月末に日の出町発展会が解散したため、調査対象が4商店街となった。日の出町発展会は、もともと空き店舗数0のため、解散による指標数値への影響はない。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①開業チャンス！応援事業（藤枝市）【再掲】

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	当該区域の空き店舗や商業施設の空きスペース等で新規出店する個人・団体又は建物の所有者に対し、建物改修費用や新規契約等初期費用、継続宣伝費用等を補助し、伴走支援を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和6年度は全体で11件の活用があり、うち中心市街地内は8件だった。昼営業の飲食店の開業などもあり、昼間の歩行者通量の増加にも寄与している。
事業の今後について	事業を通して空き店舗の活用等を推進し、空き店舗数の減少や昼間の歩行者通行量の増加に努めていく。

② トライアルスペース kokokara 運営事業（株式会社まちづくり藤枝）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の賑わい創出拠点施設「BiVi 藤枝」に設置した共同店舗の区画スペースにて、創業希望者や事業者が試行的に店舗を開設して経営体験を行い、街なかの賑わい創出と事業の実現性を高めていく起業支援を一体的に行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 6 年度は 519 件の申込みがあり、出店料売上は 962,250 円となった。前年度比では減少しているものの、その後の開業に向けた事業へと繋がるよう支援している。
事業の今後について	トライアルスペースの利用を促進することで、中心市街地での開業に繋げ、空き店舗の減少を図る。また、BiVi 藤枝と連携して駅南の賑わい創出を図る。

③ 街なかストックリノベーション事業（中心市街地リノベーション推進機構）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	トライアルスペース運営事業の次のステップとして、空き店舗等への出店に向けたプロセスや開業の支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 6 年度は、リノベーションの実績はなかった。
事業の今後について	建築・不動産業者等と連携を密にし、実施体制を再構築することで、まちの更新と活性化を図っていく。また、静岡県が進める「リノベーションまちづくり」事業と連動し、事業を加速させていく。

④首都圏企業等誘導推進事業【再掲】

事業実施期間	令和3年度～
事業概要	課題解決型ワーケーションツアー等を実施し、市に不在の革新的技術・サービスを有する企業・オフィスをアクセス性の高い駅周辺に誘導し、地域企業とのビジネスマッチングを促進することにより、中心市街地での活動交流の促進や関係人口の創出とともに、市内産業の成長や新たなビジネス創出につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金
事業目標値・最新値及び進捗状況	同事業の拠点となる「藤枝駅前コワーキングスペース未来共創ラボフジキチ」の利用者数は、令和6年度は9,433人と、昨年より835人増加した。施設利用者による空き店舗への出店はなかった。
事業の今後について	引き続き同施設の運営をサポートし、利用者の増加を目指す。

⑤エコノミックガーデニング推進事業（藤枝市、藤枝エコノミックガーデニング推進協議会）

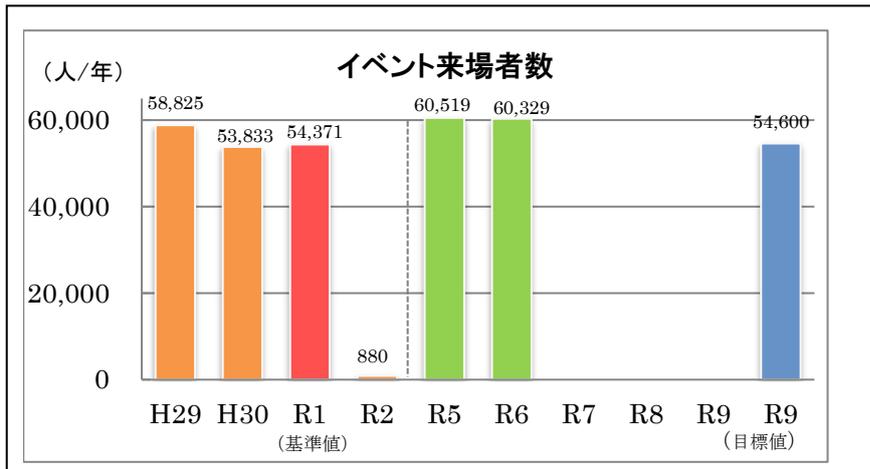
事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	藤枝エコノミックガーデニング支援センター「エフドア」でのビジネス相談や情報提供、セミナーなどを開催し、地元企業の成長を支援する。また、産学官金で構成する協議会において、市内企業の業況等の情報共有を図り、課題、意見、要望等を集約する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	EG支援センター「エフドア」におけるマッチング支援件数は25件、うち中心市街地域内の企業への支援は5件。また、アフターフォロー等を目的とした企業訪問件数はのべ63回、うち中心市街地内の企業への訪問件数は11件であった。エフドアを通して中心市街地内に開業した店舗も1件あった。
事業の今後について	エフドアを通して既存事業者や新規事業者へ支援を行い、空き店舗の減少を図っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

各事業がおおむね順調に進捗していることや、コワーキングスペース「未来共創ラボフジキチ」では、人とのつながりや新規ビジネスの成長、スタートアップのサポートなどの拠点として地域に根付いてきており、同拠点から新たなビジネスが展開されていくことが期待されている。また、藤枝駅前二丁目市有地有効活用事業で整備されるコワーキングスペース等では、女性の起業・創業を支援し、働く場の創出につなげていく。さらに、「街なかストックリノベーション事業」については、実施体制を見直し、強固な基盤を形成していき、静岡県が進める「リノベーションまちづくり」と連携して事業を推進していくことで、目標達成できる見通し。

(4)「イベント来場者数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 96～P. 99 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R1	54,371 (基準年値)
R5	60,519
R6	60,329
R7	
R8	
R9	
R9	54,600 (目標値)

※調査方法： 中心市街地区域内のイベント来場者数を集計

※調査月： 通年

※調査主体： 藤枝市・株式会社まちづくり藤枝

※調査対象： 中心市街地区域内のイベント来場者

〈分析内容〉

イベント来場者数の増加に向けた事業は、予定どおり実施することができた。

令和6年度はイベントを計12回開催。来場者数は60,329人と、昨年と同水準の実績となった。昨年に引き続き、大人気企画である「藤枝ビール祭り」を実施したほか、「サッカーのまちふじえだ」らしい「まちなかサッカーフェス」や、サブカルチャーであるコスプレイベントなど、新たな企画による集客により、中心市街地の賑わいに大きく寄与した。また、イルミネーション事業では、初の試みとして、駅南ロータリーを封鎖し観覧場として開放。市内外から多くの方が来場し、経済波及や賑わい創出へとつながった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 駅周辺広場・道路空間賑わい創出事業(藤枝市、株式会社まちづくり藤枝、実行委員会等)

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	道路空間および駅周辺広場、公園等の既存ストックの有効活用による賑わい創出イベントやイルミネーション等の実施
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和5年4月～令和10年3月)
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和6年度は「て～しゃばストリート」を11回、「love local MARKET」を1回、計12回のイベントを実施。大人気企画に加え、新たなコンセプトのイベントを実施したことなどが寄与し、目標値を大きく上回る結果となった。
事業の今後について	引き続き、集客力のあるイベントを継続しつつ、新たなイベントを企画・立案することで、イベント来場者数の増加と賑わい創出を図っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は順調に進捗していることから、目標達成は可能な見込み。

今後も、官民連携によるイベントを積極的に実施していき、新たな企画や主催者により、広域エリアから訴求力のある魅力的なイベントを実施することで賑わいを創出していく。また、イベントを通して中心市街地の魅力を発信するとともに、経済波及効果を高めていく。